

科目名	専門演習 I Seminar I							
科目担当者	宮田 浩史 MIYATA Hiroshi							
単位数	4	配当年次	2年	授業形態	演習	開講学期	通年	
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 演習] 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)	
授業の概要	<p>各回の演習内容の詳細については、ゼミ生の実力に応じて柔軟に修正する予定です。</p> <p>通年では、模擬裁判の実施と卒論作成の準備としてのテーマ研究を実施することを予定しています。また、宅建士試験受験希望者が多い場合には、宅建士試験に合格できる法的思考力と知識をつけるためのトレーニングも実施します。</p> <p>3年次4年次につながるものとしては、卒業論文作成の基礎的実力をつけるため、自分の問題意識を文章化するトレーニングを積むことを適宜予定しています。前期後期それぞれにおいて、図書館で自分の興味のあるテーマに関する書物を探し、時間内に一定の報告書をまとめるトレーニングを積むと同時に、成果を個別に報告することを義務付けます。</p>							
授業の到達目標	<p>①民事法を中心としつつ、公法・刑事法の範囲も視野に入れて、応用的素養の基礎をつくる。</p> <p>②既に学んだ分野について、指定の基本書を使って立体的な法的思考が自らできるような思考力をつける。</p> <p>③模擬裁判や実践的な活動を通じて手続法の発想を会得する。</p> <p>④様々なテーマを考察して多面的に分析する発想をするとともに、皆と活発に議論し、社会とのつながりを考え、自分に何ができるか、考えを深め、実践できるようになる。</p> <p>⑤ノートPCを用いて双方向的なやりとりができる。</p>							
授業計画・内容	1	イントロダクション	16	図書館での研究①	2	図書館を利用してみよう (問題発見過程①)	17	図書館での研究②
	3	暫定報告と図書館利用 (問題発見過程②)	18	その他不動産関連法規の確認	4	調べたテーマについての報告①	19	図書館での研究 (テーマの検証と進展)
	5	調べたテーマについての報告②	20	個別報告①	6	ニュースや重要な社会問題についての議論①	21	個別報告②
	7	ニュースや重要な社会問題についての議論②	22	個別報告③	8	民法演習① (物権法制)	23	検察庁見学その他フィールドワーク予定
	9	民法演習② (債権法制)	24	模擬裁判準備①	10	都市計画法その他まちづくり法令①	25	模擬裁判準備②
	11	都市計画法その他まちづくり法令②	26	模擬裁判期日①	12	宅建業法その他法令	27	模擬裁判期日②
	13	フィールドワーク① (裁判傍聴)	28	模擬裁判期日③	14	フィールドワーク② (その他テーマ)	29	模擬裁判の振り返り
	15	総合 (演習の解説・検討を含む)	30	まとめ				
授業外学修 (事前学修)	各回の内容に応じ、適宜、指示します (毎週合計2時間程度)							
授業外学修 (事後学修)	各回の内容に応じ、適宜、指示します (毎週合計2時間程度)							
成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応	
	<p>出席し、積極的に授業に参加することが第一です。</p> <p>①提出物及び個別報告</p> <p>②授業における発表及び当てられたときの発言</p> <p>※提出物及び個別報告は、提出 (報告) 条件を満たしていれば、50%は無条件で与え、残りの20%は、問題意識が明確であること、分析のアプローチが説得的であること等で評価</p>				<p>①70%</p> <p>②30%</p>		<p>①②④⑤</p> <p>①②③④</p>	
成績評価基準	<p>秀： (評点90点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優： (評点80点～89点) 到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良： (評点70点～79点) 到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可： (評点60点～69点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可： (評点60点未満) 到達目標に達していない場合</p>							
教科書	適宜指示します							
参考文献								
その他	ノートPCを常時利用するので授業時に持参すること。							